今年の世羅町は!! 2014

待望のインフォメーションセンター（仮称）が完成

整備総額 59,572万円(平成26年度分)

内　訳	平成25年度	平成26年度	合　計
事　業　費	4,432万円	59,572万円	64,004万円
（委託料）	232万円	1,200万円	1,432万円
（工事費）	4,200万円	58,372万円	62,572万円

主な概要

● 設置場所
尾道自動車道世羅IC付近

● 運営主体
テナント形式ではなく、町内のいろいろな事業者が参加しやすい体制とする。

● 施設内容
世羅町の情報発信、PR館として位置づける建物を北側（国道432号寄り）に配置し、その南側に芝生広場、交流広場、バス乗降場、駐車場を整備する。建物は将来的に交流広場方向に増築可能なレイアウトとする。

● 駐車場
小型車78台　大型車10台　身障者用2台
EV対応スペース2台　バイク専用を設置する。

● トイレ
男子用（小5・大2）、女子用5・多機能トイレを設置する。

● 情報コーナー
- ロングカウンターを配置し、統一性のあるデザインポスターを掲示する。
- 利用者の要望に沿った内容のパンフレットを作成し、専任スタッフによる説明を行う。
- ※デジタルサイネージを設置し、リアルタイムに町内の開花、催しなどの情報を発信提供する。

● アンテナショップコーナー
商品陳列台、ワゴン、ショーケースを配置し、旬の農作物、町独自の加工品などを販売する。

● キッチンステージ
軽食の販売のほか、調理デモが可能なスペースを確保する。

※デジタルサイネージ（電子看板）：平面ディスプレイやプロジェクタ等により、映像や情報を表示する広告媒体。

合併10周年記念事業

整備総額 1,233万円（平成26年度）

内　訳	
キャラクター作成事業	100万円
記念誌作成事業	50万円
記念式典事業	623万円
町民手づくり事業	460万円

主な事業内容

● キャラクター
「イメージキャラクター」
デザインを広く一般から公募（すでに公募終了）し、世羅町のキャラクターにふさわしい4作品を選出して、一般投票により入選作品を決定し、広報誌などで公表する。

● 記念誌
「ひとと、まちと、未来をつなぐ　世羅町10th」
世羅町の四季、世羅町10年の歴史、世羅高校陸上競技部栄光の軌跡、未来への担い手対談などを掲載する。

● 町民手づくりイベントの種類
10周年記念イベント
町民会議が町民手作りイベントに協賛し、必要経費の一部を財政的に支援する。また、各種媒体を通じてイベント開催をPRする。
10周年後援イベント
町民会議が認定した町民手作りイベントに広報活動の支援をする。

● 記念式典
開催日時、内容などは、後日、決定次第公表する予定。

平成26年度予算に 反対 賛成

反対

住民本位の町政を

矢山　武

この地域で、農業を中心とする地域経済をどのように守るか、定年を迎える職員が増える中で、職員の適正配置が必要である。政策決定がきちんと論議でき、責任ある行政を執行することが非常に重要な課題である。

限られた予算のなかで、高齢化により健康を害したり、身体が不自由になったとき、安心を図っていける対策が強く求められている。

住民の要求に応え、住民本位の町政を求めて反対討論とする。

賛成

今後の発展の起爆剤に

田谷　幸奏

町の財政をみると、これからも大変厳しい状況にあるが、前年度より増額になる積極的な予算となっている。

予算の中には、合併10周年記念行事やインフォメーションセンターを中心とした「道の駅」の開業があるので、これらの事業により、今後の町の発展の起爆剤となることを期待する。

予算執行に当たっては、執行の都度、必要性、重要性、緊急性などを検討したうえ、費用対効果を考慮し、健全な財政運営を要望して賛成討論とする。

反対

予算は町民のために

福田　豪

人口減少、高齢化社会は、将来の福祉予算の増大を招く。介護保険は、今のサービスの質を維持しつつ、保険料の上昇を抑え、介護予防に取り組まなければならない現実が迫っている。

町の活性化だけでなく、町民が満足できる公共の福祉をいかに確立するかが求められる。

予算は、町のためではなく、町民のために編成され、決めるべきであり、それが協働のまちづくりの基になると信じ、反対討論とする。

賛成

町民の手で医療を守る

福田　義人

税収が少ない町では、依存財源を適正に使うことが行政運営の要である。

医療があってはじめて介護・福祉が完結するので、町民の手で医療を守るという体制を堅持することを期待する。

また、教育環境を守る視点から、甲山中学校グラウンドの暗渠排水改良工事が実施される予定であり、大いに評価する。

下水施設は重要なライフラインであり、町の発展に責任を持つことは重要な政策である。

ＩＴ機器の活用は、財政効率に大きく反映するので、それらを中心とした職員の育成に期待して賛成討論とする。

予算審査特別委員会